

## 認知症の人の心

本人は何も  
わかっていない  
は誤りです

認知症の症状は時間とともに進行して、日にち、時間、場所、人物などがわからなくなりますが、悲しい、さびしい、嫌だ、うれしい、楽しいといった感情はいつも感じています。

そして、もの忘れ、いつもできていたことができなくなったつらさや不安を抱えながらも、それまでの人生で培ってきた自分自身の誇りも持ち続けています。



## 認知症の人への接し方

認知症の人への対応には、認知症に伴う認知機能低下があることを正しく理解していることが必要です。そして、偏見をもたず、認知症は自分たちの問題であるという認識をもち、認知症の人を支援するという姿勢が大切です。

## 対応の心得“3つの『ない』”

### 1 驚かせない

突然後ろから声をかけたりせず、ゆっくり近づいて相手の視野に入ってから声をかけましょう。

### 2 急がせない

一度にたくさん話しかけたり複数で囲んだりせず、相手の反応をうかがいながらゆっくりと会話をしましょう。

### 3 自尊心を傷つけない

失敗を責めたり叱ったりせず、気持ちに寄り添った対応を心掛けましょう。

7つの『ポイント』  
具体的な対応の

- まずは見守る
- 余裕をもって対応する
- 声をかけるときは1人で
- 後ろから声をかけない
- 相手に目線を合わせてやさしい口調で
- おだやかに、はっきりした話し方で
- 相手の言葉に耳を傾けてゆっくり対応する



## 成年後見制度をご存じですか？

認知症などの理由により判断能力が不十分な方が、財産管理や契約で不利益をこうむったり、権利や尊厳が侵害されたりすることのないように「後見人」と呼ばれる人が、身の回りに配慮しながら財産の管理や介護サービス等の契約を行い、ご本人の権利を守り生活を支援する制度です。

## 町の事業

認知症の予防、また、認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らしていただくために町では様々な事業を行っています。お気軽にご相談ください。

### 【認知症予防のために…】

#### ○脳と体の若返り教室

認知症の発症リスクを減らすために、頭と体を同時に使う脳活性化運動“コグニサイズ”を取り入れた教室です。年2コース(1コース12回)、町内の各施設を順次まわり実施しています。教室の詳細や募集は、広報でお知らせしています。

お問い合わせ：福祉課 ☎85-7790

### 【認知症の方と家族を支えるために…】

#### ○認知症サポーター養成講座の開催

「認知症サポーター」とは、何か特別なことをする人ではありません。認知症について正しく理解し、偏見を持たずに温かい目で見守ることがスタートです。養成講座に参加し認知症の基礎知識を身につけサポーターの一員になりませんか。

お問い合わせ：地域包括支援センター ☎85-3002

#### ○おだわら家族会～箱根町の方も参加できます～

認知症について、誰にも話せない介護の悩みや困っていることなど、同じ立場にある介護者の方々が語り合い、助言しあって励みあう集いの場です。月1回、小田原合同庁舎で開催。

お問い合わせ：福祉課 ☎85-7790

#### ○GPS位置情報検索機器の貸与

「徘徊SOSネットワーク」(中面参照)に事前登録をされた住民の方とその家族の希望により、所在不明の際にその位置情報を検索するための機器を貸し出します。

お問い合わせ：福祉課 ☎85-7790

### 相談窓口

○箱根町地域包括支援センター ☎0460-85-3002

○箱根町福祉部福祉課 ☎0460-85-7790

○認知症疾患医療センター(曾我病院) ☎0465-42-1630

受付時間 月～金曜日 9:00～17:00 (祝日・年末年始を除く)

○なやむことなし かながわ認知症コールセンター ☎0570-0-78674

受付時間 月・水曜日 10:00～20:00 (祝日・年末年始を除く)  
土曜日 10:00～16:00

○若年性認知症コールセンター ☎0800-100-2707

受付時間 月～土曜日 10:00～15:00 (祝日・年末年始を除く)

## 住み慣れたわが家・地域で暮らしていくために ～認知症安心ガイド～

認知症になっても  
住み慣れたまちで  
いつまでも暮らし続けたい



地域包括支援センター



認知症初期集中支援チーム  
(平成30年度設置予定)



健康づくり・介護予防



かかりつけ医



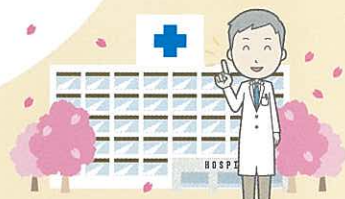
地域住民



介護サービス



施設サービス



認知症疾患医療センター  
専門医療機関

### 活用方法

認知症安心ガイドは、認知症かなと感じた時や認知症と診断を受けた時に、どこに相談すればよいか、どのような制度が使えるかなど、役立つヒントをまとめたものです。

認知症になったとしても、住み慣れたわが家・地域でサポートを受けながら暮らしていけるように、この冊子の情報をご活用ください。